

**戦術学習を中核としたゴール型ボールゲーム授業の
学習過程に関する実践的研究**

長岡市立大島小学校

海老原 宏紀（平成 29 年度）

本研究は、ゴール型ゲーム「バスケットボールを簡易化したゲーム」の授業において、「ゲームと対話」中心とした授業展開をすれば、「ゲームへの有効な参加」と「戦術」について深く思考することができるようになるのではないかという仮説の下、授業実践を行った。

本研究では、単元の前半で「**チーム内ゲーム(きょうだいチームでのゲーム)**」を行った。ここでは、混沌としたゲームの対決状況の中で、相手の守備を突破するための自分のやるべき役割を見付け、それに専念させながらゲームへの有効な参加を目指した。次に、役割を交代してゲームをすることで、自分の役割を広げていった。単元の後半では、「**チーム間ゲーム**」を行った。ここでは、対戦相手が変わっても、自分のやるべき役割を果たしたり、役割交代をしたりしながら、相手の守備を突破するためのよりよい役割について話合いながらゲームを行った。それぞれのゲーム前には、作戦ボードを活用して「**誰が、どこで、何をするのか**」の役割を明確にする話合いを、ゲームとゲームの間では、**個々が自分の役割の中で獲得した戦術的思考を持ち寄り、作戦タイムの中でどのように相手の守備を突破していくかを仲間と思考させていった**。このような授業を展開したことで、児童は戦術について理解を深めながら、自己の役割の変容を実感し、仲間と共に協力しながらゴールという目標を達成する喜びと大切さについて学ぶことができた。